

図書館報

— Seinan Toshokan pou —

2017.
October
No.183



世界の図書館

1 当館所蔵「ちりめん本」種々(1)

—“Japanese Fairy Tale Series”—

図書館長 古田 雅憲

2 研究ノートから

「日本は「猫文化大国」!?」人間科学部 社会福祉学科 准教授 山根 明弘

ブラウジングルーム

「物事をより良くするために」商学部 経営学科 教授 王 曉華

3-4

世界の図書館

ハミルトン図書館

文学部 外国語学科 英語専攻 教授 宮原 哲

ポドリアン図書館

国際文化学部 国際文化学科 准教授 尹 芝恵

5

都道府県統計書データベース

図書情報課 副課長 山下 大輔

6

自動書庫ってどこ?

図書情報課 小川 ゆさえ

7

蔵書ギャラリー no.23

『専売局報』

経済学部 経済学科

准教授 前田 廉孝

当館所蔵「ちりめん本」種々(1)―“Japanese Fairy Tale Series”―

図書館長 古田 雅憲

当館の貴重書庫に“Japanese Fairy Tale Series”と題する和本20冊揃がある。桃太郎、舌切雀、猿蟹合戦といった日本昔噺を英訳した挿絵入り叢書で、それぞれ“MOMOTARO, or Little Peachling”、“The Tongue Cut Sparrow”、“Battle of the Monkey and the Crab”などとする。いずれも和紙11丁ほどの小本(約15×10cm)で、活版印刷した英文に木版多色刷りの挿絵が添えられている。最も早いNo.1“MOMOTARO”で明治18(1885)年初版、最も遅いNo.16“The Wonderful Tea Kettle”(文福茶釜)が明治29(1896)年初版である*1。

すべて片手にのるサイズだが、手にとれば不思議と持ち重りがして掌になじむ。その心地よさを味わいつつ頁を繰れば、指先にもまた独特の質感が伝わってくる一ぼったりとしなりと、なめらかでいてさらっとした感じ。

実は全紙に細かなしぼ加工が施されているのである。指先や掌に得る感触はそのしぼの効果一言わば上等の絹織物にしぼ加工を施した縮緬(ちりめん)に似て—こういう仕立ての和本を「ちりめん本」と称する由縁である*2。奥付に編集人として「長谷川武次郎」の名が刻まれている。そう、このちりめん本叢書こそ後に「長谷川弘文社」の名を世界に知らしめた美本そのものである*3。

ちりめん本の出版について長谷川自身「ふとした思いつきで」と振り返っている*4が、その作業の実際は一刷り上がった和紙を軽く濡らし、数丁ずつしぼ型紙に包んで圧縮を掛け、縦横の向きを変えてまた圧縮し、その工程を十数回は繰り返す—実に手間暇のかかるものだった。もちろん腕利きの紙職人(揉み師)がそれを支えた。また「ちりめん紙」は製本も難しく、紙端を美しく切りそろえるにも特製の紙包丁とそれを使いこなせる職人(綴じ師)がまた別に必要だった。かくも手間暇をかけ出費を重ねるとなれば「ふとした思いつき」だけでは続けられまい。長谷川の内心には「確たる思い」がきつと宿っていたはず—美本上梓への憧憬、伝統的な職人仕事への共感、生来的な進取の気性、あるいはもっと違った何か。



「黍団子を配る桃太郎」

ともあれ一度は手にとっていただきたい—素晴らしく美しい挿絵にもきっと感嘆していただけるだろう。

試みに“MOMOTARO”から表紙絵「黍団子を配る桃太郎」図*5を掲げた。絵師は狩野永恵(かのうえいとく)の弟子にしてあの月岡芳年(つきおかよしとし)の盟友、小林永濯(こばやしえいたく)。これより先に「第一回内国勧業博覧会」(花紋賞)や「観画会第一回大会」

(一等賞)などで画名を馳せていた本格派の日本画家である。

構図は勝川春章「桃太郎鬼ヶ島行」*6などにも見える伝統的な作例に従うが、画面には自ずと奥行き感が醸し出されている—読者の視線はまず近景(人物と周囲の景物)に注がれ、次いで中景(背後の緑なす丘々)を経て遠景(遙かな山なみ)へと導かれるのだ。そうして画面を見晴らしながら、桃太郎一行がここまでたどってきた、そしてここから後にたどるだろう時間と空間の広がりについて、読者はすっと諒解するのである。いかにも冒険物語の表紙絵としてふさわしい。

一方で細部の描出—犬猿の毛並み、雉の羽筋、藁編み脛巾、黍団子の網袋、松ヶ枝や菊花弁など、それらを描き出す線の何と細やかで確かなことか。さらにまた輪郭線と寸分違わず施された彩色、またその色彩の目にも鮮やかなこと。よく見れば手書き風の表題Japanese Fairy Tale Seriesさえ木版による。おそらく版全体は桜材を使いつつ、細密が求められる部分には別に硬い柘植材を埋めて彫ったもの—名だたる浮世絵秀作に用いられた手法と同様である。

このように凝った挿絵がどの頁にも描き添えられている、しかもすべてちりめん紙である—その出版を絵師・彫り師・刷り師・活字工・採み師・綴じ師など幾多の伝統職人たちの手仕事を支えたのである。それは取りも直さず長谷川武次郎という人が、時に頑固で気難しくもあつたろう名工たちを束ねるほどの熱意と財とを併せ持つ、名編集人だったことの証左でもある。

石澤小枝子さんは「絵本の黎明期にあつて、かくも美しい工芸品のような本が日本に、そして外国にも販路を得て広まっていたことは、まさに希有のことで、記録されてしかるべきだ」*7とおっしゃったが、まさしく至言である。

参考資料

- (※1) 長谷川武次郎編「Japanese Fairy Tale Series」弘文社、1885-1896(6階 貴重書庫 388/1/22-1~20) 当館所蔵のものは後刷りを含む取り合わせ本である。
- (※2) 「ちりめん本」について以下の諸書が詳しい。
 - ・石澤小枝子著「明治の欧文挿絵本 ちりめん本のすべて」三弥井書店、2004(当館未収蔵)
 - ・宮尾與男編「対訳日本昔噺集:明治期の彩色縮緬絵本」彩流社、2009(5階 ブックツリー外回り 388/1/100-1~3)
 - ・中野幸一/榎本千賀編「ちりめん本影印集成:日本昔噺輯篇」勉誠出版、2014(5階ブックツリー外回り 388/1/116-1~4)
- (※3) 「Japanese Fairy Tale Series」には英・仏・独語など四カ国語版(最終的にスペイン語ロシア語など合わせて十カ国語版)があつたので、来日した各国人が帰国の際に日本土産として好んで求めた。また東京市中のほかKelly & Walshの横浜・神戸・香港・シンガポール・シドニー各店舗でも取り扱われ、本によっては英国老舗の児童書専門店Griffith Farran & Companyの店頭を飾ることもあつた。
- 長谷川は後に“Les contes du vieux Japon”や“Images Japonaises”などを携えてパリ万博(1900年)に臨み見事「金牌」を受賞している。
- (※4) 長谷川武次郎「木版書の輸出」(畫報社「美術新報」13-3、1914年1月)
- (※5) 当館所蔵本は明治19年の再版本。初版本表紙は「鬼城に討ち入ろうとする桃太郎」図である。国際日本文化研究センターや東京女子大学比較文化研究所のウェブ上で閲覧可。
- (※6) 同図は東京国立博物館のウェブ上で閲覧可。
- (※7) 上掲書5p。

日本は「猫文化大国」！？

人間科学部 社会福祉学科 准教授 山根 明弘

現在、空前の猫ブームと言われている。テレビ番組やニュースの話題に猫が登場しない日はない。私が猫の調査を行っている相島には、休日ともなると大勢の観光客が押し寄せる。お目当てはもちろん、自由気ままに暮らす島の野良猫たちだ。最近、島には海外からの観光客も多い。彼らは、日本人ほど猫好きな民族はいないのだと言う。理由を聞いてみると、子供の頃に見た日本のアニメには必ずといっていいほど猫が登場し、しかも驚くことに人間の言葉を喋る(注1)。それがとても cool (カッコいい!) でカワイイのだそうだ。

平岩米吉著の「猫の歴史と奇話」などの文献(注2)を頼りに、日本人と猫の関係を調べてゆくと、面白いことがわかる。実は、幕末から明治にかけて、現在をはるかにこえる「大猫ブーム」があったようだ。当時



猫の歴史と奇話(注2)

の浮世絵の美人画のなかに、猫は脇役としてたびたび登場していたが、そのうちに猫だけの浮世絵が現れる。さらには、歌川国芳とその弟子たちによる、猫が着物を着て擬人化され、しかも猫のセリフ付きの浮世絵まで現れる(注3)。これは単なる猫好き浮世絵師たちの道楽ではない。江戸の庶民が喜んで買っ

ていったからこそ、たくさん刷られたのだ。

日本人と猫との蜜月関係を示す事例はこれだけではない。その最たる例は「招き猫」であろう。現在でも招き猫は、商売繁盛を願って店先などに飾られている(注4)。招き猫の発祥の地については諸説あるが、最初に登場したのは幕末の頃。そしてまたたく間に、日本全土に広まったという。



ねこのおもちゃ絵(注3)

面白いのは、それぞれの土地の風土や文化の影響を受け、招き猫が多様化していったことである(注5)。特に東北地方の招き猫は、春の花で飾られたカラフルなものが多い。長い間、雪に閉ざされた土地に住む人々の、春を待ち焦がれる想いが込められているのである。また、少し古い時代のものには、前足でナマズを踏みつけている招き猫がある。これは、ナマズが暴れて地震を引き起こすと考えられた当時、この地方で大被害をもたらす大地震を、猫に封じてもらっていたのである。このように招き猫には、その土地に暮らす人々の切実な願いまでもが込められている。古今東西このような例は、他にはない。日本是世界一の「猫文化大国」だと言ってしまうのも、良いのではないだろうか。

注1:たとえば「ポケモン」のニャース、「魔女の宅急便」のジジ、「ドラえもん」も実は猫型ロボット／注2:平岩米吉著『猫の歴史と奇話』、築地書館1992(5階通常書架 489/53/3)／注3:長井裕子著『ねこのおもちゃ絵: 国芳一門の猫絵図鑑』小学館、2015(6階通常書架 721/8/137)／注4:現在、出回っている招き猫は、愛知県の常滑焼のものがほとんどである。地方に行けば、その土地独特の招き猫がある。福岡県では、津屋崎人形、赤坂土人形、長崎県では古賀人形、宮崎県には佐土原人形など、様々である／注5:名古屋市博物館編『いつだって猫展』、2016(6階展覧会図録 721/8/138)／他:本校出身者の大久保京(おおくぼ みやこ)さんが、日本初のネット猫本屋「書肆 吾輩堂」(<http://wagahaido.com>)を起業した経緯やエピソードについて記した本を出版しています。大久保京『猫本屋はじめました』洋泉館、2014。(3階ブックツリー外回り 024/1/25)

ブラウジングルーム

物事をより良くするために

商学部 経営学科 教授 王 曉華

私は生産管理論の授業でよく学生に、「買い物をする時、どのような物を選びますか?」という質問をします。すると、ほとんどの学生は「良い物」「安い物」と答えます。このような「良い物」「安い物」を作り出すためには、生産システムの継続的改善が常に求められます。

では、どのようにして継続的改善をすればいいのでしょうか。最初にトヨタ生産方式やPDCAサイクル、システム思考などを思いついたが、どの本を皆さんに紹介するかとても悩みました。夏休み中に数回図書館へ足を運び、最後に辿り着いた6階の本棚で一冊の本が目にとまりました。『ザ・ゴール』(注1)です。

6階は小説のフロアとなっており、なかなか足を踏み入れない人も多いでしょう。確かに『ザ・ゴール』は小説で、著者は物理学を研究していたエリヤフ・ゴールドラット博士です。彼はもともと生産スケジューリング・ソフトを開発する会社の会長で、自分のやり方をわかりやすく伝えるために、この小説を書いたそうです。小説の主人公であるアレックス・ロゴは、経営不振で閉鎖に直面している工場の



所長で、学生時代の恩師に教わったTOC (Theory of Constraints, 制約条件の理論) をうまく利用した結果、わずか3ヶ月で工場を危機から救ったのです。

TOCは継続的改善を図るための

システムアプローチで、その主な要素は次の5つのステップです(注1, p.474)。①制約条件を見つける。②制約条件をどう活用するか決める。③他のすべてを②の決定に従わせる。④制約条件の能力を高める。⑤制約条件が解消したらまた①に戻る。制約条件はシステムの中で最も弱い部分で、システムのパフォーマンスはこの制約条件によって決まります。5つのステップを行い、制約条件を解消することによって全体の最適化が期待できます。

TOCを構成するもう1つ重要な要素は、思考プロセスです。これは物事をより良くするために、まずは「何を変えるか」「何に変わるか」、そして「どうやって変えるか」という3つのシンプルな質問を掲げます。思考プロセスの詳細はゴールドラット博士の2番目の小説『ザ・ゴール2』(注2)に書かれています。工場の危機から10年、アレックス・ロゴが多角事業の副社長に昇格し、思考プロセスを駆使して売却の危機に陥ったグループを救ったストーリーです。この手法で自らの家族問題をも解決したシーンが描かれています。

他にもゴールドラット博士の著書が数冊並べられています(写真参照)。図書館を訪れる際には、ぜひ手に取ったらいかがでしょうか。

(注1) エリヤフ・ゴールドラット著、三本木亮訳『ザ・ゴール—企業の究極の目的とは何か』ダイヤモンド社、2001[6階 通常書架 933/G61/3B]

(注2) エリヤフ・ゴールドラット著、三本木亮訳『ザ・ゴール2—思考プロセス』ダイヤモンド社、2002[6階 通常書架 933/G61/3-2]

世界の図書館

[アメリカ・イギリス編]



ハミルトン図書館 (ハワイ大学)

アメリカ

「ハワイ」と聞いて多くの日本人の頭に浮かぶのは、青い空、ワイキキ、カイルアなどの美しいビーチ、のんびりとした生活…、といったところだろう。

それらの印象に加えたのが日本からの移民とその子孫によって育まれたハワイの歴史、政治、経済などの側面である。今年4月、米国上院議員を50年近く務めた日系二世イノウエ氏の名誉を称え、ホノルル国際空港がダニエルK. イノウエ空港と改名されたこともハワイでの日系人の存在と活躍の大きさを物語っている。

ハワイ大学マノア校の、レインボー・シャワー(写真2:1本の木から白や黄、赤などの花が咲き、花びらが、虹が降るように散ることから付けられた名称)に囲まれたハミルトン図書館(写真3)には、200年近く前に始まった日本からの移民の生活、戦時中の苦悩、そして現在の多民族共存の社会を築いてきた苦労の姿を物語る多くの図書(写真1)が収められている。

オアフ島でも、大学があるマノア地域は比較的雨が多く、ほとんど毎日虹が、しかも2つ、3つ同時に見られることも珍しくない。ハワイ州が「レインボー・ステート」という通称を持つのも納得である。しかし「レインボー」のもっと

深い意味は、性的マイノリティー、いわゆるLGBTのシンボルとして認知されることから想像できる通り、さまざまな色によってできてはいるものの、それぞれの色が混じり合うことなく、共に一つの大きな弧を作り出す、ということ。

同じことは人種にも言える。肌の色だけではなく、文化、宗教、習慣などの違いをお互い認め合い一つ一つの州を作り、その寛容さが多くの人を魅了するハワイを築いている。

米国のほとんどの大学図書館がそうであるように、ハミルトン図書館も誰もが出入り自由である。大学の看板学部である天文学、海洋生物学、観光学、英語教育の蔵書はもちろん、日本、中国、フィリピン、ポルトガル、サモアなどからの移民の歴史に関する貴重な図書が豊富にそろっている。そして、そこで学ぶ学生、教員の人種、出身国、宗教などもまさに「虹」の状態である。今では「日系人」と言っても世代が新しくなるたびに他人種の血が混じり、純粋な日系人の数は減る分、虹を構成する色の数は増えている。

次回ハワイを訪れたら、ハミルトン図書館で時間を過ごし、本を読む合間に、人間観察でもすれば、きっと素敵なみやげ話を持って帰れるだろう。



[写真1 所蔵書籍]

[写真2 レインボー・シャワー]



[写真3 ハミルトン図書館]

国際文化学部 国際文化学科 准教授 尹 芝恵

オックスフォード大学は、学部と複数のカレッジ (College) やホール (Permanent Private Halls) が並列している独特の構造から、図書館もそれらに付属するものとして多数存在する。その中でも、代表的なのが「ボドリアン図書館 (Bodleian Library)」である。7百万冊以上の蔵書があり、聖書初版やシェークスピア初版、マグナカルタの原本なども所蔵するイギリスを代表する伝統ある図書館として知られている。大学図書館のルーツは14世紀らしいが、トマス・ボドレー (Thomas Bodley) 卿が16世紀末から17世紀にかけて散逸していた蔵書を整備、再建し、今の形態となった。

ボドリアン図書館の中心的な場所は、映画ハリー・ポッターの hogwarts 図書館の撮影場所にもなった「ハンフリー公爵図書館 (Duke Humfrey's medieval library)」と円形の外観が美しい「ラドクリフ・カメラ (Radcliffe Camera)」である。オックスフォード大学の施設の一部が観光客に有料で開放されているようにこれらも有料ツアーで見学ができる。本を閲覧する目的でなくても美しく雄大な建築や古書を見物するだけで目が肥える場所でもあり、連日観光客でにぎわっていた。オックスフォード大学の学生や教職員なら専攻学部や所属カレッジ以外でも大学のすべての施設を利用できるので、ボドリアン図書館の中心部のこの場所に多くの学生が勉学のために訪れており、観光客も勉強に励む学生たちを生で見ることもできる異色の場所でもある。

在外研究のため滞在していた私もほとんどの施設を無料で利用することができ、ボドリアン図書館にも頻繁に足を運んでい

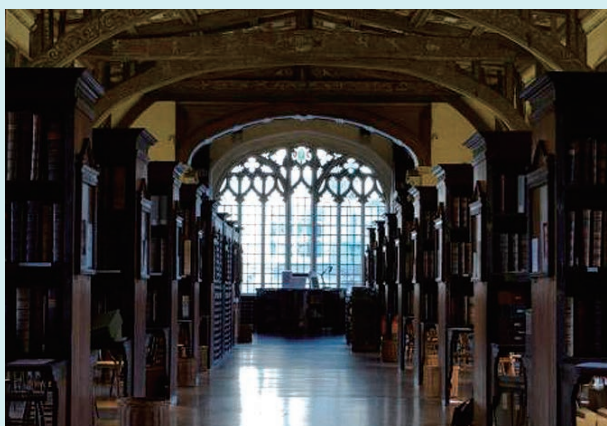
た。実はボドリアン図書館は、例の有名な中心部の建物だけではなく、26か所もある図書館の総称である。私の必要な専門書がある東洋学部の図書館 (Bodleian Oriental Institute Library) やセント・アントニーズ・カレッジ (St Antony's College) に位置する日産現代日本研究所の図書館

(Bodleian Japanese Library) もボドリアン図書館の一部であった。2015年にはデジタルコレクションの新しいオンラインポータル (Digital.Bodleian) を公開し、電子化された書籍、手稿、地図、美術作品等の利用が可能になり、様々な研究分野に迅速に役立っている。

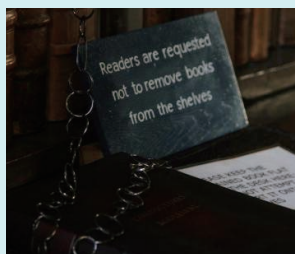
オックスフォード大学の39のカレッジの中で私が所属していたウォルフソン・カレッジ (Wolfson College) は大学院のみが設置され、家族で滞在するための寮の完備など施設利用が便利であった。カレッジの図書館は学生や研究者だけではなくその家族も個室の勉強部屋が利用できたほどである。その自由な雰囲気惯れていた私は、子供にボドリアン図書館の中心部の雰囲気を感ぜさせたくて連れて行ったことがある。入場は案の定NO。しかし、子供が入っても面白くないからお勧めできないと言った係員の紳士な断り方からもイギリスらしさを感じた図書館として記憶に残っている。



[写真1 ボドリアン図書館外観]



[写真2 ハンフリー公爵図書館内部]



[写真3 ハンフリー公爵図書館内部]



[写真4 ラドクリフ・カメラ]

写真出典: Bodleian Libraries
University of Oxford
<<http://www.bodleian.ox.ac.uk/>>

DATABASE 都道府県統計書データベース

Prefectural Statistics Online

アクセス方法：アクセス方法：図書館HP>データベース>テーマから探す(統計)>都道府県統計書データベース

図書情報課 副課長 山下 大輔

都道府県統計書データベース（以下PSO）は、明治から約100年間公開を続けられてきた、「都道府県統計書」を電子データベース化したものである。図書館では、総合的分野の資料を中心に図書館主導で整備を進めているが、PSOもその一つである。現在、「九州・沖縄」地区の、明治・大正時代を購入している。今後も、段階的に整備を行っていく計画である。

都道府県の統計資料は、明治6年頃から「○○県一覧表」などの簡単な統計表としてスタートしている。その後、明治17年に「府県統計書様式」が統一化され、ほぼ毎年刊行されることとなった。これまで、各図書館では、マイクロフィルム版として利用されてきた（本学は未所蔵）が、この度、電子化され、データベースとして利用可能となった。

土地気象、人口、教育賃金、経済、社会政策、金融、財政、行政、司法など24に分類された、ジャンルを含む。画像数は、約90万件、レコード数150万件を収録している。集録ジャンルは、表のとおり。

集録の全24のジャンル					
土地気象	人口	労働賃金	事業所	農業	林業
水産業	鉱工業	土木建築住宅	電気ガス水道	運輸通信	商業貿易
金融	物価家計	財政	経済	社会保障	保健衛生
教育	文化観光	公務員選挙	司法警察	災害事故消防	軍事防衛

これまで、一つのテーマについて、経年的な統計資料の抽出が必要になった場合には、冊子やマイクロフィルムの該当箇所を、リールを差し替えながら、閲覧する必要があった。

また、当館に未所蔵の資料も多く、他大学や研究機関へも照会を行いながら、時間をかけてデータを収集していく必要があった。

PSOの特徴の一つは、資料が電子化されたことに伴い、各表全てにメタデータが付与されたことである。例えば、慈恵褒賞、社会事業、厚生といった関連統計について、「社会保障」というキーワードで全て検索してくることが可能である。「社会保障」の検索結果は、福岡県に限定しても約400件（全都道府県では、約10,000件）ヒットする。「単位労働組合数および組合員数」「失業状況」など興味深いタイトルが並ぶ。

以下は、公式パンフレットからの抜粋であるが、全て、PSOで調査が可能である。

明治時代の各都道府県の米の生産量の推移は？

昭和30年代の関東地方の労働賃金の平均は？

戦前の福井県内の教員数（男女別・年齢別）採用状況は？

大正時代の各都道府県における神社仏閣の数は？

戦前の物価が分かる資料とは？

情報を探すことに労力がかかっていた時代、分野は、情報収集そのものに、スポットライトがあてられ、また、労力が評価される側面が多くあったように思う。これからは、情報を収集した上で、アウトプットの質が評価される機会が多くなっていくのではないだろうか。

情報の入手に係るコストは、各段に低下し、日々進化を続けている。多くの情報を入手し、利用することを体験し、自分なりの思考を深めていくことで、大学での学びは、より深いものになっていくことが期待される。

図書館のデータベースを知ること、これから探索する世界が、途方も無い広大なものから、地図が整備され、計画的な探索が可能な地域へと変わっていく。そんな世界を図書館では、日々構築している。ぜひ、積極的に足を踏み出していきたい。

?? 自動書庫ってどこ? ??

図書情報課 小川 ゆきえ

OPACで本や雑誌を検索した時、配架場所に「7階自動書庫」と表示されているものを見つけたことがあると思います。エレベータも階段も6階までしかないので、カウンターのスタッフに「7階はどこから上がるのですか?」という質問が、時々寄せられます。

今年の4月から開館したこの図書館には「自動書庫」が設置されています。文字通り「自動」で本を出し入れする「書庫」です。

自動書庫は7階にあって、普段は人が入ることはできません。写真のようなコンテナに、本が積まれ、それがローラーコンベアで7階の自動書庫へ運ばれます。出納ステーションは1階と4階にありますので、それぞれのステーションから本を出し入れします。

(自動書庫のイメージ図は図書館報No.180をご参照ください。)



自動書庫の本の中身をOPACで確認

自動書庫には、主に、OPACで目次やあらすじなど、本の中身が少しだけ確認できるものを優先して入庫するようにしています。OPACで検索した本が自動書庫にある場合は、検索結果の画面で「目次」の欄を探しましょう。目次の欄に情報があれば、「出庫」しなくてもある程度中身を知ることができます。

(自動書庫に入っている本全てに目次の情報があるわけではありません! 目次の情報がない場合は、「出庫」させて本を実際に手に取って、中身を確認してください。)

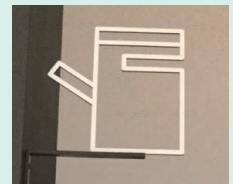
<図書> アンゼン シンワ ホウカイ ノ バラドックス : チアン ノ ホウシャカイガク 安全神話崩壊のバラドックス : 治安の法社会学 / 河合幹雄著	
データ種別	図書
出版者	東京 : 岩波書店
出版年	2004.8
本文言語	日本語
目次	目次 日外アソシエーツ『BOOKPLUS』より ▶安全神話崩壊のバラドックス—治安の法社会学 [あらすじ] ... 続きを読む
別書名	異なりアクセスタイトル: 安全神話崩壊のバラドックス : 治安の法社会学
大きさ	xii, 320p : 挿図 ; 20cm

自動書庫の本を 読みたいときは?

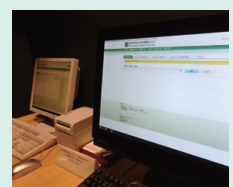
自動書庫の本も、もちろん読んだり借りたりすることができます。

そのためには、読みたい本を自動書庫から「出庫」させる必要があります。

- ① 館内各フロアにあるプリントラボに行く



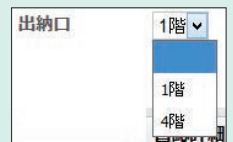
- ② プリントラボのOPACで読みたい本を検索



- ③ 配架場所の欄にある「出庫指示」ボタンをクリック



- ④ 「出納口」の欄で1階か4階を選択



- ⑤ 「実行」をクリック



- ⑥ 「完了しました」の画面で「印刷」をクリック



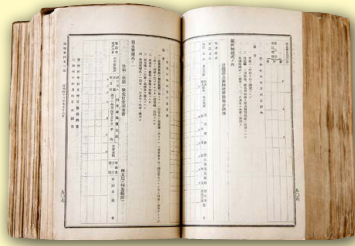
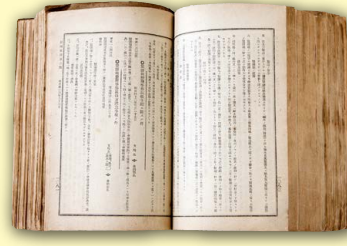
- ⑦ 「出庫依頼票」をプリントアウト



- ⑧ 「出庫依頼票」を持って行き、指定したカウンターで本を受取る

『専売局報』

[6階貴重書庫 348/4/8-]

【図1】
統計(製塩市町村数、人員、場数及生産高(1907-09年))【図2】
通達(専売局販売部長通達第三七五八号(1909年6月7日))

「自衛隊日報問題」、「森友問題」、「加計学園問題」で揺れる政府の姿を前に、嘆息をもらした日本の歴史研究者は少なくないであろう。なぜなら、以前より歴史研究者が課題を指摘していた政府内における公文書の取扱がいずれの問題でも焦点となったからである。こうした事態を招いた公文書管理において日本は、様々な面で諸外国より劣っている。日本では、1971年に設置された国立公文書館(東京都千代田区)が公文書を管理する。しかし、その職員数53名はアメリカの約2,500名より大幅に少なく、その所蔵文書数約111万点は韓国の約280万点よりも少ない。こうした公文書管理のあり方をめぐる議論では、公文書廃棄の判断基準が論点となってきた。そして、その判断が諸外国と異なり日本では各省庁に委ねられ、結果として2007年度には公文書のうち約9割が廃棄処分された(松岡(2010))。但し、日本では戦前・戦時期作成の公文書には焼失したものも多い。それは、現在に至るまで政府の公文書が作成・保管されてきた東京は、1923年関東大震災、1944～45年空襲で被災したためである。例えば、大蔵省(現・財務省)庁舎は関東大震災で完全に焼失し、「明治以来の財政金融に関する重要な資料はほとんど焼失」した(大蔵省財政金融研究所財政史室(1998))。そのために、近現代日本における政策史研究を進める際の史料的制約は大きい。この制約には、筆者が研究対象の1つとする塩専売制度の運用過程を分析する際にも直面する。

塩専売制度を含む多くの経済政策は、当該政策の大枠を規定した法律の下で、省令と通達に基づいて運営される。とりわけ、政府が専売品の輸移入を含む流通を全面的に掌握

した専売制度のような大規模な制度運用に際しては、省令と通達が多用された。そこで、分析に際しては省令と通達の内容を把握することが必須となる。しかし、省令は官報に掲載されるが、通達は掲載されない。そのために、通達内容の把握は通常において意外なほどの困難を伴う。ところが、今回紹介する『専売局報』を用いることで、塩専売制度の運用を目的に発せられた通達は網羅的に把握することができる。

同史料を作成した専売局とは、1898年に葉煙草専売制度を所管する大蔵省の外局として設置された。そして、1907年には塩・樟脳専売制度を所管した主税局専売事業課・専売技術課とその下に設置されていた塩務局・樟脳事務局も専売局へ統合された。このように3専売事業の運用を担った専売局は、1907年度には全国250ヶ所に官署を設置し、福岡市にも収納所・販売所と煙草製造・樟脳加工を担う製造所を設置した(「勅令案」1907年8月21日(『専売局官制ほか』1907年(国立公文書館所蔵、類01027100)))。そして、全国の官署に東京の本局から『専売局報』を送付することで通達類を伝達し、制度運用上の実務取扱(図1)のみならず公文書の様式(図2)まで事細かに指示した。

このように『専売局報』は、専売制度の運用過程を分析する上で必須の史料として位置付けられる。しかし、『専売局報』は日本専売公社(旧・専売局)の事業を継承した日本たばこ産業(株)と塩事業センターのみならず財務省、国会図書館も所蔵していない。管見の限りで同史料を所蔵するのは本学図書館のみであり、その史料的価値は大きいと言えよう。

参考文献

大蔵省財政金融研究所財政史室(1998)、『大蔵省史 第1巻』、大蔵財務協会。
松岡資明(2010)、『日本の公文書』、ポット出版。

編集後記

今号から、「世界の図書館」の連載が再開しました。なんと4年半ぶり!この連載を楽しみにされている声も頂いておりましたので、「新図書館建設へ向けて」の連載終了とともに再開の運びとなりました。

また、新たに新図書館の施設・機能を紹介する連載も始まり、新図書館モードの館報に少しずつ変わっているのではないのでしょうか。読者のみなさまからも、こんな記事が読みたい!というご意見をお待ちしています。

(Y.N)

西南学院大学図書館報 No.183

2017(平成29)年10月31日発行

編集 図書館報編集委員会

発行 西南学院大学図書館

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号

TEL(092) 823-3426

<https://opac.seinan-gu.ac.jp/library/>

図書館報バックナンバー(No.153～)も上記サイトに掲載しています。